

## ※ 適切な運行経路を外れたために起こった重大事故事例

### 京浜急行本線神奈川新町第1踏切衝突事故

★2019年（令和元年）9月5日 11時40分頃（列車脱線事故〈踏切障害による〉）

青砥発三崎口行き快特・第1088SH列車（1000形1137編成8両）が、京急本線の神奈川新町駅 - 仲木戸駅（現：京急東神奈川駅）間の神奈川新町第1踏切道<sup>[353]</sup>で、踏切内で立ち往生した大型トラックと衝突<sup>[354][355]</sup>した。列車は前3両が脱線し<sup>[354][356][357]</sup>、先頭車両が斜めに傾いた<sup>[356]</sup>他、トラックより漏れ出した燃料に引火しトラックと列車の1両目3番扉付近が炎上した<sup>[354]</sup>。また、トラックの積荷（レモンなど約660箱）が現場広範囲に散乱した。

この事故でトラックを運転していた67歳の男性運転手が車外に投げ出されて死亡、乗員乗客の合計37名が負傷した<sup>[358][355]</sup>。事故をうけて5日正午過ぎに首相官邸に情報連絡室が設けられた<sup>[359]</sup>。

事故の影響で、京急川崎駅 - 上大岡駅間で終日運転見合わせとなった<sup>[354]</sup>。翌6日に横浜駅 - 上大岡駅間は運転を再開したが、事故現場での破損車両撤去などの処理に手間取り復旧作業が大幅に遅れた影響で、京急川崎駅 - 横浜駅間は7日の昼にかけて運転見合わせとなり<sup>[356]</sup>、7日13時過ぎに全線での運転を再開した<sup>[357][360]</sup>。神奈川県警は事故の社会的影響の大きさに鑑み、事故原因の究明にあたるため17日に特別捜査本部を設置した<sup>[361]</sup>。

この事故により、次のダイヤ改正日である10月28日から運行開始予定だったモーニング・ウィング1号は12月2日まで運休を余儀なくされた<sup>[362][363]</sup>。

トラックは現場から約800メートル東南の倉庫で荷物を積み込み、千葉県成田市に向かう途中でアンダーパスを避けているうちに本来のルートから逸れて細道を通って現場に至り、細道を抜けようとして切り返していたところで踏み切りに入って立ち往生し、事故に遭遇したとみられ

る<sup>[364][365]</sup>。なお、運転手は同ルートの運行は4回目であり、何故ルートを逸れたかは不明である<sup>[366][367]</sup>。

列車が衝突現場の手前で停まらなかった点について、当初は、踏み切り支障を知らせる発光信号機が現場の手前340mにおかれ、これを240m手前から視認できることから、600m手前で踏み切りの支障を認識して、十分に停まれる筈であると説明された<sup>[364]</sup>。後に京急は、発光信号機は現場の手前390mにおかれ、現場の570m手前から視認できると発表した。発光信号機の手前はカーブで電柱に隠れて見えにくいこと、非常ブレーキを扱うと乗客を転倒させ負傷させることから必ずしも直ちに非常ブレーキを扱う指導をしていなかったこと、運転手も当初は通常ブレーキを扱ったと述べていることが明らかとなった<sup>[368]</sup>。

事故当該編成の1137編成は、一部の車両の損傷が激しく、2020年3月14日付で新1000形初の廃車となった。



脱線した京急1000形1137号車。仲木戸方より



脱線した京急1000形1137編成（奥）。子安方より  
画像中央が事故現場の神奈川新町第1踏切道